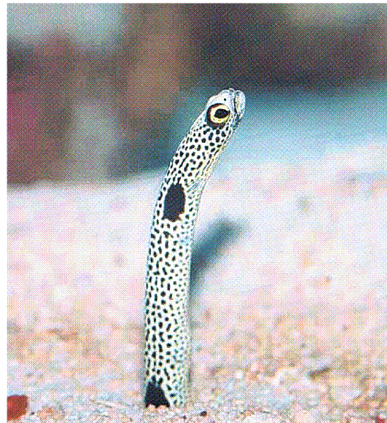


(右から反時計回りに)
砂から顔を出すチンアナゴ
▷かごしま水族館
にあるチンアナゴの水
槽▷チンアナゴの赤
ちゃん



チンアナゴ

学名 *Heteroconger hassi*

生息域 南日本・太平洋沿岸から琉球列島、インド・西太平洋海域に分布。サンゴ礁外縁部の潮通しのよい砂地に群れをなして生息する。

食べ物 動物プランクトン

特徴 ウナギ目アナゴ科に属する海水魚の1種。顔つきが犬の狎に似ていることから名前が付けられている。白い体に多数の小さな黒点と大きな五つの黒斑がある。黒斑は位置が決まっています。えらあな付近に左右一つずつ、体の横に左右一つずつ、肛門に一つある。お互いに少しずつ離れて砂に潜っているが、時にはけんかをすることもあります。けんかの時にはならみ合い、口を開けて威嚇し合う

砂に潜った部分が長い

チンアナゴは砂から頭をのぞかせ、ゆらゆら揺れる様子が人気です。下半身はいつも砂に潜っているため、体全体を見たことがある人は少ないかもしれません。実は潜っ

ている部分のほうが長く、全長は約40センチもあるのです。寿命は3〜5年といわれていますが、飼育を始めて4年が過ぎた頃からよく卵を産むようになります。普段は

そして数日後、産卵しました。夜暗い中で産卵するため、なかなか見ることができません。雌が砂から伸びあがって

チンアナゴの赤ちゃんがいったい何を食べて大きくなるのか、まだ詳しいことはわかっていません。かごしま水族館ではサメの卵をはじめ、いろいろなものを与えてみましたが、食べる様子が見られるものの、成長には至っていません。いつか大人になるまで育てることができれば、いつ大人と同じ形になるのか、斑点が出てくるのか、多くの謎が解けるかもしれません。(展示課海獣展示係

おもしろ

生き物図鑑

かごしま水族館から

一定の間隔をおいて1匹ずついるのですが、ある時から2匹ずつ、かなり近い距離でいることに気づきました。時には2匹で体を絡め合わせたります。

主査・大塚美加